

高齢社会というが、平均年齢は？

全国は43.2歳、大阪市は43歳、西成区は49.6歳、釜ヶ崎は？

平均年齢	平成17年	平成12年	差=17-12
大阪市	43.0歳	41.8歳	1.2歳
西成区	49.6歳	47.3歳	2.3歳
旭区	45.0歳	43.3歳	1.7歳
東住吉区	44.5歳	42.7歳	1.8歳
大正区	44.3歳	42.7歳	1.6歳
阿倍野区	44.3歳	43.3歳	1.0歳
生野区	44.1歳	43.2歳	0.9歳
此花区	44.1歳	42.2歳	1.9歳
中央区	43.8歳	43.8歳	0.0歳
港区	43.6歳	41.7歳	1.9歳
住吉区	43.5歳	41.6歳	1.9歳
東成区	43.2歳	42.7歳	0.5歳
住之江区	43.0歳	40.2歳	2.8歳
城東区	42.7歳	41.4歳	1.3歳
都島区	42.7歳	41.0歳	1.7歳
浪速区	42.5歳	43.2歳	-0.7歳
平野区	42.4歳	40.3歳	2.1歳
福島区	42.4歳	42.4歳	0.0歳
西淀川区	42.2歳	41.2歳	1歳
淀川区	42.1歳	41.3歳	0.8歳
北区	41.9歳	41.6歳	0.3歳
天王寺区	41.9歳	41.2歳	0.7歳
東淀川区	41.0歳	38.9歳	2.1歳
鶴見区	40.1歳	39.0歳	1.1歳
西区	36.3歳	40.2歳	-3.9歳
全国	43.2歳	41.4歳	1.8歳
東京都	42.3歳	41.1歳	1.2歳
特別区部	42.5歳	41.6歳	0.9歳
横浜市	41.5歳	40.0歳	1.5歳
名古屋市	42.0歳	40.3歳	1.7歳
神戸市	43.3歳	41.4歳	1.9歳
北九州市	44.5歳	42.6歳	1.9歳
福岡市	39.8歳	38.4歳	1.4歳

高齢社会というが、平均年齢は壮年期。本格的高齢期はこれから。釜ヶ崎の先駆性は高齢期の先取り？？

日本は、高齢社会といわれています。それで、どれくらい高齢なのか、平均年齢を計算してみました。

国勢調査の結果として発表される表の一つに、5歳年齢区分の人数の表があります。それを使って、仮の平均年齢を出してみました（左表をご覧ください）。

日本全体の平均年齢は、平成17年では43.2歳でした。その前の平成12年では、41.4歳でしたから、1.8歳年をとったこととなります。総務省統計局の計算では、平成7年の平均年齢は39.6歳。5年ごとの調査で、平均年齢は5歳あがるのではなく、1.8歳くらい上がる傾向があるようです。

1950年の平均年齢は20歳代後半と考えられます。団塊の世代が年齢を重ねるのにあわせて、日本の平均年齢も上がってきているといえます。団塊の世代の孫世代は数が少ないので、今後、日本全体の平均年齢は急速に上がると予想されます。

大阪市の平均年齢は、全国と同じくらいですが、西成区は全国よりも、6歳年上、平均年齢が5歳にとどこうとしています。今年の国勢調査の結果はまだ出ていませんが、多分、5歳を超えていると思われます。

釜ヶ崎では、萩之茶屋・太子・山王などは現在でも平均年齢は50歳代中頃となっています。

日本全体としては、平均年齢でいえば、青年期から壮年期

期に入つたといえますし、西成区でいえば、壮年期も後半で、老年期に入りかかっているといえます。

釜ヶ崎は、少し前の55歳定年制度でいえば、完全にリタイア世代＝老年期の街といえます。

人が年をとるのは当たり前ですが、人が集まって成り立っている地域・街もそこに住む人々の年齢によって、青年期であったり、老年期であったりと表現できるのは少し、驚きですが、ものの考え方の基準になりそうだと思います。

人は、幼年期・青年期・壮年期・老年期で、必要なものが異なります。幼年期は愛と教育と保護でしようが、青年期は教育と働く機会でしようし、壮年期は次世代を維持する収入の確保でしよう。少なくとも、これまでの考え方は・・・。

地域を、青年期・壮年期と擬人化するのはやや乱暴かもしれませんが、しかし、その地域で主要に求められることをはっきりさせるには有効だと思います。

また、日本全体の平均年齢の上がり方を見れば、ある地域にだけ若者を集め、平均年齢を下げようと考えることが、無駄であり、ある意味エゴ(利己主義的)であることもわかります。

少し前の新聞に、パチンコ屋の新しい傾向として、年金や生保の高齢者が暇つぶしによく通ってきているので、ギャンブル性の高い機種より、長時間遊べる機種を並べるようになったと、紹介している記事があります。

した。

この現象は、釜ヶ崎や西成区全般と同じように、すべての年金時給者や生保受給者がパチンコに入れあげていることを示すものではありません。

しかし、一部であれこのような人々が存在する原因は、釜ヶ崎でやっている、パチンコ・ギャンブルや酒にお金を注ぎ込み、炊き出しの列に並んで、本当に食に事欠く人の、貴重な一食を奪う人々の出現と、基本的には原因は同じものです。

問題は、社会が、青年期から壮年期後半へ移行しているのに、その対応が遅れていることです。

日本全体のことはともかく、西成区や釜ヶ崎は、完全に地域として高齢期にあります。高齢期対策が重要であると考え、介護を必要とする人だけでなく、元気な人の居場所や暇つぶしの機会が多く提供される仕組みを考える必要があります。

ただ、お金も地域の面積も限られています。憩いの場を確保し、ギャンブルでない健全娯楽を活性化させるには、公園は公園として機能させる、夜間宿所は別のものにする、といった、現在あるものの使い方を考える必要があります。

そのためには、それぞれ事情もあるでしょうが、まげて、公園の仮小屋から、夜間宿所利用から、生活保護制度を活用して、多くの人がアパート・マンションへ移行する必要があります。どうでしょうか？